

厚生労働省「戦略産業雇用創造プロジェクト事業」
京都次世代ものづくり産業雇用創出プロジェクト
ものづくり産業先端 ICT 紹介セミナー（2014 年第 2 回）

ものづくり産業に貢献する RT（ロボット技術）・ICT

（公財）京都高度技術研究所では、京都経済の重要な成長エンジンである「ものづくり産業」の持続的発展に向けて、基盤技術である ICT（情報通信技術）の活用による分野間融合及びそれによる新たな価値創発・新事業創造・雇用創出の取組を進めています。

この度、その一環として、下記の通り、「ものづくり産業」において、今後、幅広い活用が期待される RT（ロボット技術）・ICT の導入・活用に関する最新の動向やその利用の成功事例について紹介するセミナーを開催しますので、お知らせします。

セミナーの開催は終了しました。

セミナーでご案内の日本機械学会 ロボティクス・メカトロニクス講演会 2015（ROBOMECH2015 / <http://www.jsme.or.jp/rmd/robomech2015/>）特別企画へのご要望・ご参加（ポスター発表）、本事業全般に関わるご質問・ご相談は

京都 ICT+ものづくり融合センター

（E-mail: kicom-at-astem.or.jp / ※-at-を半角@に置き換えて）までお寄せ下さい。

記

日時：2014 年 11 月 25 日（火）

主催：（公財）京都高度技術研究所

共催：京都府、京都市、（公財）京都産業 2 1、京都次世代ものづくり産業雇用創出プロジェクト推進協議会

趣旨：新成長戦略では、製造業などものづくり産業を始めとする各産業分野において、ロボットシステムや要素などの先端技術の積極的で幅広い導入・活用によって高付加価値の製品、生産技術、サービスの創造と提供を加速させようとしています。

これら産業を持続発展させることで、経済基盤の安定化、雇用創出を促進しようとしています。その中、ものづくり産業向けのロボット技術（RT）にどのような要請があり、また分野融合の基盤機能である ICT に求められていることは何でしょうか。

本セミナーシリーズ第 2 回目では、立命館大学・川村氏を招き、ものづくり産業へのロボット導入に向けた新たな動向やその利用の成功例について紹介いただき、

ニーズや課題、京都の特長を活かしたものづくりについて示唆をいただきます。名城大学の大原氏には、ロボットシステム用ソフトウェアの再利用性を考えたミドルウェア技術についてのシステム開発事例や、標準化の動向について説明いただきます。株式会社セックの長瀬氏には、ロボットビジネス立ち上げにおける苦労話や成功・失敗例を通じてのものづくり R T と I C T 活用のご経験をお聞かせいただきます。

本セミナーを通じて、I C T 企業が次世代ものづくり産業分野間融合にさらに取り組み、ともに新事業創造および雇用機会の創出・拡大を目指す際のヒントを得ていただくことを目的としています。

プログラム：

「ものづくり産業に向けたロボット技術」

立命館大学 理工学部 教授 川村貞夫 氏

(ご略歴：大阪大学大学院基礎工学研究科機械工学博士課程修了。立命館大学理工学部教授、総合理工学研究機構先端ロボティクス研究センター長。立命館大学副学長、NEDO 技術委員、日本学術会議連携会員、日本ロボット学会会長などを歴任。多関節構造体の運動制御、学習制御、高エネルギー効率ロボット、極軽量ロボット、水中ロボットなどロボット運動知能の研究に従事。)

「RT ミドルウェアを用いたロボットシステム開発」

名城大学 理工学部 准教授 大原賢一 氏

「当社のロボット技術開発・応用 ～ICT 活用とものづくり RT～」

(株)セック 開発本部 部長 長瀬雅之 氏

定員：先着 60 名

※対象受講者：京都府内中小・中堅 ICT・ものづくり企業経営者、技術・営業責任者

聴講料：無料

本事業は、京都府が厚生労働省の採択を受けて、京都市をはじめとする「オール京都」体制のもとで推進する「京都次世代ものづくり産業雇用創出プロジェクト」の一環として実施するものです。